

衆議院安全保障委員会ニュース

【第201回国会】令和2年7月8日（水）、第7回の委員会が開かれました。（閉会中審査）

1 令和2年7月3日からの大雨による被害で亡くなられた方々に対し、黙祷をささげました。

2 国の安全保障に関する件

- ・河野防衛大臣、若宮外務副大臣、山本防衛副大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。
（質疑者）小野寺五典君（自民）、濱地雅一君（公明）、小熊慎司君（立国社）、篠原豪君（立国社）、本多平直君（立国社）、屋良朝博君（立国社）、赤嶺政賢君（共産）、串田誠一君（維新）

（質疑者及び主な質疑事項）

小野寺五典君（自民）

- （1） 敵基地反撃能力の保有
 - ア 憲法上自衛隊が我が国を防衛するために保有できる実力の具体的な限度
 - イ ミサイル防衛の一環として同能力を保有することについての河野防衛大臣の見解
 - ウ 同能力の保有について与党の議論を待たず政府として判断する必要性
- （2） イージス・アショア配備計画の停止に伴う諸問題の早期決着に向けた河野防衛大臣の決意

濱地雅一君（公明）

- （1） 令和2年7月豪雨災害に係る自衛隊災害派遣における更なる増員と迅速な対応の必要性についての河野防衛大臣の見解
- （2） イージス・アショア配備計画の停止
 - ア 当該停止の判断がなされた経緯を検証し結果を報告する必要性についての河野防衛大臣の見解
 - イ 代替案の検討に関するスケジュール感及び与党が関与するプロセス
- （3） 巡航ミサイル防衛についても議論を進める必要性についての河野防衛大臣の見解

小熊慎司君（立国社）

- （1） イージス・アショア配備計画の停止
 - ア ヘルビー米国防次官補代行による「計画は停止されたけれども撤回されたわけではない」旨の発言に対する政府の見解及び計画の事実上の撤回が日米関係に及ぼす影響
 - イ ブースターが落下する装備品の過去及び現在の保有状況
 - ウ ブースターが落下する装備品が現在配備されている基地の周辺住民から理解を得る方策及び今後ブースターが落下する装備品の購入に当たって配備予定基地の周辺住民の理解の有無が判断の指標となる可能性
- （2） 洋上風力発電設備と防衛レーダーの干渉問題
 - ア 発電設備とレーダー等の防衛施設との間に干渉が生じ得る具体的状況
 - イ 老朽化した発電設備の改修が防衛省の規定に沿ったものとなるために防衛省が講じる予算措置等の対応
 - ウ 防衛施設と洋上風力発電施設の利益が相反しないように柔軟に対応することに関する河野防衛大臣の見解

篠原豪君（立国社）

(1) 香港情勢

ア 香港国家安全維持法の成立・施行により「一国二制度」の国際約束を反故にした中国に対して、習近平国家主席の国賓としての受入れが不可能であることを伝える必要があるとの意見に対する政府の見解

イ 香港の市民や民主活動家を我が国が柔軟に受け入れる必要性についての政府の見解

ウ 国際的なビジネス都市である香港をめぐる米中の全面对立が懸念される状況において両国の間に立つ我が国が経済的な観点から対処する方法に関する政府の見解

(2) 台湾、尖閣諸島を含む東シナ海及び南シナ海をめぐる中国の軍事的圧力の強化への対処に関する河野防衛大臣の見解

(3) 敵基地攻撃能力の保有

ア 敵基地攻撃に関してブースト段階のミサイルに対する攻撃は許されるが発射台や基地に対する攻撃は違憲であるとの考えに対する河野防衛大臣の見解

イ 我が国独自の敵基地攻撃能力の保有と米国の I AMD（統合防空ミサイル防衛）構想との関係性

ウ 懲罰的抑止である敵基地攻撃能力の保有が国家安全保障戦略の改定に向けて議論されることに対する河野防衛大臣の所見

エ 国家安全保障戦略の改定に向けた議論において他国との全面戦争にもつながりかねない敵基地攻撃能力の保有という誤った方向に向かわないようにすることに対する河野防衛大臣の意気込み

本多平直君（立国社）

(1) イージス・アショア配備計画の停止

ア イージス・アショア配備計画の検証

a 配備計画に係る検証結果の国会への報告時期

b ブースター問題だけではなくイージス・アショア導入の経緯も含めて検証を行う必要性

c 導入の経緯について河野防衛大臣が把握する必要性

d レーダー選定経緯の適切性についての河野防衛大臣の認識

イ イージス艦によるミサイル防衛

a イージス艦8隻体制によるミサイル防衛に対する河野防衛大臣の評価

b イージス艦の人員配置についての情報開示

c イージス艦に搭載されている誘導弾数が搭載可能数をかなり下回ることについての河野防衛大臣の認識

ウ 敵基地攻撃能力の保有

a 安倍総理がイージス・アショア配備計画の停止に際して敵基地攻撃能力の保有を議論する旨の発言をしたことに対する河野防衛大臣の認識

b 河野防衛大臣と安倍総理との間でイージス・アショア配備計画の停止に際して敵基地攻撃能力について事前にやり取りをした事実の有無

c 敵基地攻撃をする際に必要な装備

d 湾岸・イラク両戦争における米軍によるイラク軍のスカッドミサイル発射拠点への攻撃の成果についての河野防衛大臣の認識

e 米軍によって行われた敵基地攻撃を検証した上で我が国の敵基地攻撃能力の保有に関する議論を行う必要性

(2) 航空宇宙自衛隊への改称

ア 航空自衛隊を航空宇宙自衛隊に改称する計画の有無及び改称する場合に隊員の意見を聞く必要性

イ 改称は不要との考えに対する河野防衛大臣の見解

屋良朝博君（立国社）

- (1) イージス・アショアの配備計画の停止
 - ア 関連経費の既契約額、支払義務を負う額及び解約に伴い発生する経費
 - イ 解約に伴い既契約額以上に負担が発生する可能性の有無
 - ウ 第三者委員会で配備計画の経緯を検証し国民に対する説明責任を果たす必要性
 - エ これまでの経緯に関する国民への説明や検証方法に関する防衛省の方針
 - オ 配備を予定していたSPY-7レーダーの今後の取扱い
 - カ 防衛政策の決定過程において国家安全保障会議の影響力が増した結果、防衛省の役割に疑問が呈されているとの指摘に対する河野防衛大臣の見解
- (2) 辺野古新基地建設工事等
 - ア 建設工事継続の合理性を検証する必要性
 - イ 在沖縄米海兵隊の兵力、装備及び任務等を踏まえて新基地建設の合理性を検証する必要性
 - ウ 沖縄と他の都道府県を比較することなく沖縄に米軍が駐留する地理的優位性があるとする理由
 - エ 水産庁が実施した沖ノ鳥島でのサンゴ移植実験における移植から3年後の生残率
 - オ 自然破壊や沖縄の民意という民主主義のコスト等も踏まえて米海兵隊の沖縄駐留の要否を議論する必要性
 - カ 沖縄の民意を無視して新基地建設を進める政府の対応は先進国の国防とは言えないとの指摘に対する河野防衛大臣の認識

赤嶺政賢君（共産）

- (1) イージス・アショア配備計画の停止と敵基地攻撃能力保有の検討
 - ア 配備計画停止に関して検証を行い責任の所在を地元住民や国民に明らかにする必要性についての河野防衛大臣の認識
 - イ 本年6月26日の記者会見で河野防衛大臣が言及したイージス・アショアに替わるオプションとして想定している具体的な手段
 - ウ イージス・アショアに替わるオプションをめぐる議論に関して河野防衛大臣が自ら国民に対して説明する必要性
 - エ 2017年12月のスタンド・オフ・ミサイル導入決定の際の導入目的に関する政府の説明内容
 - オ 敵基地攻撃能力保有の検討を行うこととスタンド・オフ・ミサイルの導入目的を自衛隊員の安全確保としたこれまでの政府の説明との整合性
 - カ 敵基地攻撃能力保有の検討の対象に改修された「いずも」型護衛艦を離発着するF-35Bによる他国の爆撃も含まれるかどうかについての防衛省の見解
 - キ 敵基地攻撃能力保有の検討とF-35Bの導入、「いずも」型護衛艦の改修及びスタンド・オフ・ミサイルの導入との関係性についての河野防衛大臣の見解
 - ク 朝鮮半島の非核化について言及した2018年6月の米朝合意に対する現時点での評価及びその実現に向けた我が国の取組
- (2) 辺野古新基地建設に係る埋立工事の進捗状況
 - ア これまでに契約した辺野古側の埋立工事における土砂投入の総量、履行期限及び進捗率
 - イ 防衛省が示した進捗率が現在契約している高さ4mまでの埋立に対する進捗を示しているという理解の正否
 - ウ 軟弱地盤が確認されていない辺野古側においても埋立工事の進捗が遅れている理由
 - エ 防衛省が今後の埋立工事を計画通りに進めることができるとする具体的根拠

串田誠一君（維新）

- (1) 日本人と在留外国人における新型コロナウイルス感染症の感染状況の比較調査実施の有無
- (2) ミサイル防衛
 - ア 配備計画が停止されたイージス・アショアが仮に配備されたとしてもアバンガード等の極超音速ミサイルへの対応は困難であるため別の形の抑止力を検討する必要性があったとの指摘に対する防衛省の見解
 - イ ミサイルを発射させない抑止力として最も効果的な方法についての防衛省の見解
 - ウ 敵基地攻撃を行う判断基準である相手国による攻撃の実行の着手についての国際法上の考え方
 - エ 我が国のミサイル防衛の今後の展望に対する河野防衛大臣の見解